

長崎県地方史だより

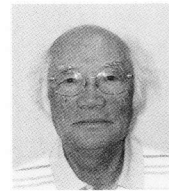
第72号

題字 小曾根 星 堂 先生

「今に至り中興の祖…」

新しい有馬晴信像の表出

福田 八郎



平成二十四年
は、西陲島原半島
を領地とした日野
江城主有馬晴信の
没後四百年忌に当

たり、甲州市大和町初鹿野や南島原市北有馬町では、それぞれ思いを込めた記念行事が行われた。中でも島原市の宮本次人氏が福岡市・海鳥社から『ドン・ジョアン有馬晴信』を上梓されたことは、望外の喜びであった。岩波書店『日本史年表』第七刷版をめくると、有馬晴信の名を四カ所に見いだせる。天正十年一月・「大友・大村・有馬三氏、ローマ法王に使者を派遣（天正遣欧使節）」慶長十三年十二月・「有馬晴信の商船の乗組員、マカオでポルトガル人と衝突し殺される」慶長十四年十二月・「有馬晴信、ポルトガル船マードレ・デウス号を撃沈する」慶長十七年三月・「徳川家康）有馬晴信に切腹を命じ、岡本大八を火刑にする」いずれの事項も日本史上特筆に値する出来事であるうし、それと共に日本史上に有馬晴信の名を見いだすのは郷里の誇りでもある。そこで少しく有馬晴信の

事象を考察し、新しい晴信像表出を試みてみたい。史料としては『藩翰譜』元禄十五（一七〇二）年刊、『藤原有馬世譜』文化三（一八〇六）年刊、『国乗遺聞』文化八（一八一二）年刊、『寛政重修諸家譜』文化九（一八一二年刊）の中で、『藤原有馬世譜』（以下『世譜』）を中心に並び、これに対応するに、フロイス、ヴァリニャーノら宣教師たちの報告・書簡などを適宜照応させて推論を進めていくものとする。以下、引用文中の傍線部の検討により、具体的な有馬晴信像が鮮明になればと思っている。

「御霊公（太祖より十五代・有馬十三代）諱は晴信、始め鎮純また鎮貴また久賢、方円公の第二子、丘雲公の御弟、

御母は家臣安富越中入道得円の女にて、丘雲公御同母、

（此の事御家譜に洩れたれども鷹屋信次が記に、得円は修理公の外祖父なりと記するを証とす）永禄十年丁卯有馬にて御誕生（此の時方円公御年四十七、丘雲公御年十八）御童名十郎、のち従五位下に叙し修理大夫に

目次

- ・ 「今に至り中興の祖…」
- ・ 新しい有馬晴信像の表出 福田 八郎 1
- ・ 佐世保の水道 —佐世保軍港水道のあゆみ— 山口日都志 4
- ・ 奥島家文書「とめ書翰」松浦静山の新史料を発見 豊島 幸子 6
- ・ 地方史研究会及び県内各加入団体の活動状況 8
- ・ 事務局より 12